

Ⅲ-3

子どもの実態に合わせた指導

なるほど、そういうことだったのか！

● 目の前の子どもを意識することが基本

どんなに素晴らしい内容も、指導方法が目の前の子どもに合っていないければ、確かな学力の育成は実現できません。子どもの実態に合わせた指導について確認しましょう。



子どもたちのことをどれだけ分かっているんだろう・・・

- ・ 子どもの興味・関心、学習の理解に関する状況は？
- ・ 生活習慣や家庭生活の状況は？

まずは子どもの状況を知ることからスタート。

客観的な調査結果や記録はもちろん、教師間の何気ない会話からの情報や子どもからの情報を集めておくで大いに役立ちます。その上で、子どもの普段の発言、態度、ノートなどから、次の授業での子どもの反応を念入りに想定して授業に臨み、必要な「仕掛け」を考えましょう。

先日の理科の授業では、一人でできない子はペアで確認させながら進めると分かったようです。

社会の授業ですが、どこでつまずいているかを事前に想定して、いくつかのヒントカードを準備しておく、調べ学習のきっかけになっていたようでした。



昨日、算数のテストを採点しました。みんなできていると思っていたのですが、子どもたちはわり算が思ったよりできていなくて・・・。
どうしてここでつまずいているかを考えてみると・・・。

これまでの授業記録や観察記録、小テストや定期テスト、各種の学力・学習状況調査の結果や子どもの記述・回答状況などをもとにし、教師の教えた感覚と子どもの学んだ実態の間にズレがないか丁寧に確認しましょう。

● 授業に向かう子どもの様子に注目

○ 子どもの表情はどうですか？課題に向かおうとしていない子どもはいませんか？

- ・ 一人一人の子どもの顔をゆっくり観察し、授業前の声かけをしてみましょう。

いつも元気なのに、今日はどうしたの？



朝からちょっと体調が悪くて、朝ごはんも食べることができなくて・・・

○ 既習内容の定着に個人差があり、課題がつかめていない子どもはいますか？

- ・ 前時の学習内容をペアやグループで説明したり、確認したりするような活動を取り入れてみましょう。

関ヶ原の戦いはどんな勢力の争いだったっけ・・・



豊臣家を守ろうとする勢力と、それを倒そうとする徳川家康を中心とした勢力の争いだったね。

授業を進めていくと、様々な反応を示す子どもがいます。学習に取り組む姿から子どもの状況を把握し、適切な支援や活動の場の設定について確認しておきましょう。

○ 学習活動中、動きの止まっている子、落ち着かずきょろきょろしている子はいますか？

(その子は集中して考えているのか、それともどうしてよいか分からず困っているのか、また、課題を既に終えて次にすることがないのでしょくか？)

- ・ 内容の理解が進んでいない場合は、ヒントカードの活用や適切な助言(どこを見るのか、何をするのかなど)をしましょう。
- ・ 進んでいる子には、他の方法はないか考えさせたり、発展的・応用的な学習へのきっかけを示したりしましょう。
- ・ 子どもの学習状況により、意図的、計画的な指名をしましょう。



○ 子どもが置き去りになっていませんか？

(計画通りに進めたいあまり、子どもの様子を見逃していませんか？)

- ・ 個別の支援をしてもなお、子どもの理解が不十分な時には思い切って指導計画を変更してみることも大切です。



その前から分らないのに・・・



授業での類似課題や宿題の出し方の工夫

授業中、みんなで取り組み、その課題の解決はできても、後で類似課題に個人で取り組ませると、理解度や解決力は一人一人異なることがあります。現時点で、どこまでが分かって(できて)、どこからが分かっていない(できない)のかを教師が把握するとともに、子どもにも自覚させ、改善につなげるために、授業時間中に個人で取り組む類似課題や宿題の出し方を工夫しましょう。

- 授業の後半や単元内のある授業時間内に、類似課題に個人で取り組む時間を確保しましょう
- 共通課題と選択課題を組み合わせ、子どもに合った学習ができるようにしましょう
- 自主学習ノートに、子どもが調べたり、学習したりしたことをまとめることができるようにしましょう

子どもの学年や発達段階に合わせて、ページ数などの課題量や、自主学習のまとめ方の例などを示し、子どもが自分で創意工夫しながら学習習慣が身に付くようにしましょう。

ワンポイント！

「子どもを生き生きと成長させるのは教師の適切な助け」

「学習の主体者である子どもたちは、教師の適切な助けを借りることによって、自分を生き生きと成長させ変化させていくことができるのである。」(斎藤喜博)

教師の適切な助けが、子どもの目を輝かせます！